

表5-6. 人工妊娠中絶率(女性人口1000人対):20歳未満

	平成3年 1991年	平成4年 1992年	平成5年 1993年	平成6年 1994年	平成7年 1995年	平成8年 1996年	平成9年 1997年	平成10年 1998年	平成11年 1999年	平成12年 2000年	平成13年 2001年	平成14年 2002年	平成15年 2003年	平成16年 2004年	平成17年 2005年	平成18年 2006年	平成19年 2007年	平成20年 2008年	平成21年 2009年	平成22年 2010年	平成23年 2011年	平成24年 2012年
全国	6.9	6.8	6.6	6.4	6.2	7.0	7.9	9.1	10.6	12.1	13.0	12.8	11.9	10.5	9.4	8.7	7.8	7.6	7.1	6.9	7.1	7.0
北海道	14.6	13.9	13.0	11.8	11.4	12.7	13.2	16.2	18.7	20.3	21.9	21.0	18.9	16.9	13.6	11.6	10.5	10.6	9.8	9.0	9.4	9.0
青森	5.2	5.6	6.4	6.1	6.0	9.3	9.8	12.1	14.3	15.3	16.4	13.6	12.7	11.6	10.7	8.7	8.1	8.4	7.5	7.5	8.0	8.0
岩手	7.4	8.1	8.0	8.4	9.5	10.1	10.9	13.0	14.2	17.0	18.0	16.6	14.4	12.3	10.8	9.1	7.8	7.4	7.4	6.3	5	5.4
宮城	10.3	9.4	8.4	9.0	8.6	10.3	10.9	13.5	15.2	16.8	17.5	17.3	16.9	11.8	10.6	10.2	8.9	7.8	8.3	6.5	7.9	7.5
秋田	13.1	11.6	11.5	10.3	9.3	9.9	10.2	12.2	16.2	19.3	18.2	18.0	14.9	11.2	11.0	9.2	6.3	6.6	8.0	5.2	5.3	4.6
山形	10.3	10.7	9.8	8.4	10.8	10.3	11.0	14.1	15.5	18.3	17.2	15.6	12.2	10.5	8.9	6.6	5.6	5.0	5.2	5.5	4.8	5.0
福島	10.2	10.0	8.9	9.1	9.6	10.8	12.1	13.1	16.1	18.6	19.4	20.5	18.6	17.7	13.6	10.5	8.7	8.6	8.1	8.0	7.6	8.7
茨城	3.4	3.8	3.3	3.0	3.1	3.8	4.0	5.6	6.6	8.4	9.1	10.5	10.1	8.0	6.8	6.0	5.4	4.8	5.3	4.4	5.1	4.5
栃木	7.5	7.4	7.2	7.2	7.5	9.6	11.4	12.9	15.2	17.4	17.5	16.1	13.2	10.7	9.9	8.9	7.7	7.8	7.6	6.9	6.5	6.8
群馬	5.6	5.6	6.0	6.1	6.6	7.5	8.2	9.8	11.4	11.8	13.3	12.2	10.4	10.2	9.1	8.5	7.2	6.8	7.0	6.8	7.6	7.2
埼玉	5.0	5.1	5.0	4.9	3.6	5.0	5.7	6.5	8.2	8.7	8.7	10.7	11.1	9.2	8.0	8.0	6.2	7.0	4.1	6.0	5.3	5.3
千葉	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7	4.5	5.3	6.1	7.5	8.4	9.0	8.6	7.9	7.3	6.6	6.5	5.6	4.8	5.3	5.5	5.5	4.9
東京	5.3	5.3	5.0	4.7	4.7	5.4	6.4	7.2	8.0	9.2	9.7	9.6	8.5	7.5	7.9	8.0	7.4	7.1	6.3	6.7	7.4	7.9
神奈川	5.9	5.9	5.8	5.6	5.7	5.7	7.0	8.1	9.3	9.4	10.5	10.2	9.6	8.4	8.1	7.3	6.7	6.4	6.5	5.6	5.5	6.7
新潟	7.1	7.7	8.0	6.8	7.3	7.6	9.1	9.5	10.9	13.1	13.3	13.4	11.7	9.6	8.4	7.9	6.6	7.1	6.4	5.8	5.7	5.3
富山	3.9	4.7	3.9	4.6	5.0	5.5	7.1	7.6	8.0	8.6	10.5	10.0	10.5	9.3	9.3	7.2	6.6	6.9	6.5	6.0	5.3	5.3
石川	8.9	6.7	6.4	6.4	5.2	6.7	6.8	7.9	10.1	11.5	13.7	13.7	12.5	9.6	8.9	7.9	8.0	7.4	7.5	6.2	6.3	6.1
福井	3.9	4.8	3.8	4.2	4.5	5.1	5.3	6.2	7.1	10.2	9.1	9.5	8.7	7.7	6.8	6.0	6.1	5.2	5.4	4.9	4.8	5.6
山梨	3.3	2.5	2.2	4.2	2.3	3.0	4.1	4.5	6.3	5.6	7.0	6.5	6.3	6.1	5.5	4.2	5.6	5.1	5.7	3.2	3.8	4.0
長野	5.3	5.6	5.1	5.0	5.5	5.7	7.0	7.9	10.4	13.4	14.4	13.5	12.6	11.3	11.3	10.1	7.4	7.6	7.8	6.7	7.2	6.3
岐阜	6.0	5.5	5.7	5.3	4.6	5.5	6.3	7.7	10.7	10.8	11.5	10.3	10.1	8.5	7.9	6.7	5.8	6.0	5.3	5.4	5.1	5.3
静岡	5.4	5.5	5.8	5.2	4.9	5.8	6.2	7.5	8.5	11.9	12.9	12.5	10.6	9.8	9.0	9.8	7.4	6.6	7.2	6.8	10.9	6.2
愛知	7.6	8.0	7.5	7.3	6.5	7.2	8.7	9.4	10.4	11.2	12.5	11.6	11.1	9.5	8.3	8.1	7.5	7.4	7.1	6.8	6.7	6.4
三重	7.4	7.2	7.0	6.5	6.7	7.1	7.9	8.9	11.0	14.5	13.4	16.0	13.0	12.7	11.1	9.1	8.8	9.4	8.2	8.0	6.4	7.1
滋賀	6.5	6.6	6.6	6.8	6.5	7.4	8.2	9.6	9.5	11.7	12.7	12.2	11.5	9.7	7.2	7.1	5.9	6.4	6.3	5.2	5	6.5
京都	6.8	6.3	6.4	5.9	5.4	6.2	7.3	8.8	9.8	11.1	11.8	12.3	11.2	9.5	8.4	8.4	7.7	7.5	7.3	6.6	6.8	7.7
大阪	6.0	5.6	5.3	5.0	4.6	5.8	6.2	7.4	8.6	9.2	10.8	11.0	11.1	9.8	9.5	9.6	9.1	8.3	7.7	7.7	8	8.4
兵庫	5.7	5.8	5.5	5.9	5.5	5.9	6.4	7.1	8.0	9.5	9.5	9.7	9.3	8.5	7.2	6.7	6.5	6.1	5.6	5.7	5.1	5.4
奈良	2.6	2.2	2.5	2.5	1.9	2.4	2.6	3.3	3.6	4.8	5.5	6.8	6.3	5.2	4.3	3.6	4.3	3.5	3.5	4.5	3.8	3.0
和歌山	5.1	5.4	4.8	4.7	4.6	4.5	6.0	6.8	8.6	11.4	12.8	12.5	11.0	10.3	9.9	9.6	8.7	7.7	6.6	6.8	6.6	7.7
鳥取	7.9	8.5	7.7	8.7	7.7	9.5	10.3	9.6	16.0	17.7	21.5	21.3	21.3	19.0	14.8	12.9	10.9	10.3	9.8	7.9	9.9	9.9
島根	6.6	6.8	5.2	5.7	5.6	5.8	5.5	6.8	7.2	8.7	10.1	11.1	11.2	9.8	8.4	5.9	6.8	6.1	6.3	7.0	12	4.8
岡山	10.9	9.6	10.8	9.7	9.0	10.8	11.8	11.8	13.7	15.3	17.2	16.8	14.3	14.2	9.2	10.0	9.8	9.2	8.8	7.1	6.8	6.4
広島	8.3	7.9	8.3	7.8	7.7	7.7	10.2	11.9	12.5	13.4	14.9	14.3	13.7	13.0	12.4	10.4	9.8	9.7	9.7	9.7	9.6	8.7
山口	6.1	6.3	5.9	5.3	5.0	5.9	6.2	6.7	9.1	10.2	12.2	12.8	12.7	12.1	9.9	9.4	8.7	9.0	8.2	7.4	7.9	8.2
徳島	4.6	4.5	6.0	5.6	6.3	6.1	8.8	8.6	8.6	10.0	9.8	10.8	11.1	10.8	8.0	7.3	7.8	6.6	6.1	7.2	5.3	5.7
香川	11.0	10.7	9.8	9.4	9.5	8.7	10.2	12.5	12.9	15.8	16.9	15.6	14.6	12.5	12.2	10.4	9.8	8.6	7.9	7.6	8.2	8.7
愛媛	7.9	8.5	7.8	8.6	7.0	7.5	8.7	10.2	12.4	14.5	14.7	15.1	14.8	13.8	12.2	11.2	10.7	10.0	9.9	9.7	9.2	7.7
高知	11.2	11.2	13.2	12.5	15.9	14.0	13.7	13.9	15.7	20.2	21.3	19.2	17.8	16.7	15.9	11.9	10.1	10.8	11.5	10.3	10	9.2
福岡	9.9	9.2	8.7	9.1	8.6	9.9	11.1	12.4	14.7	17.3	19.6	19.2	18.0	17.2	14.1	13.4	12.4	12.1	11.4	10.6	10.9	11.3
佐賀	8.2	7.6	9.0	8.6	9.5	9.1	10.3	12.3	14.3	15.9	18.0	16.7	17.7	15.8	12.6	14.2	9.0	10.4	9.7	9.1	8.1	8.5
長崎	10.3	9.9	8.7	8.9	9.4	8.0	9.2	11.3	11.9	15.3	16.0	14.9	16.2	12.6	10.6	9.4	8.7	9.9	8.6	8.3	6.7	7.6
熊本	8.1	7.8	7.8	7.9	8.9	8.4	10.4	10.5	12.8	14.6	15.5	16.1	15.3	13.5	13.1	11.8	11.6	9.4	7.3	9.2	9.8	10.1
大分	10.8	10.2	9.2	9.5	9.8	10.7	10.5	15.0	16.1	19.9	20.5	16.9	15.1	13.6	11.9	9.9	8.5	9.3	9.6	7.8	7.2	8.6
宮崎	6.8	7.0	7.1	6.6	7.1	8.1	7.9	8.3	8.7	10.6	10.1	10.9	7.0	10.5	9.8	8.7	8.9	9.8	7.7	6.5	8.4	6.2
鹿児島	5.4	5.9	5.6	6.7	6.4	7.5	8.2	8.0	9.2	12.1	11.6	12.9	11.8	10.7	9.3	8.9	7.8	8.4	8.4	7.6	6.5	7.4
沖縄	4.6	5.0	5.1	4.9	4.1	3.7	4.9	5.7	7.6	9.5	8.9	7.4	7.3	7.2	6.3	6.7	6.4	5.9	7.2	6.3	7.3	7.4

出典:母体保護統計報告(厚生労働省)、母子保健の主なる統計(財団法人母子衛生研究会)

表6.薬事工業生産動態統計調査表

単位:グロス(X144)

年	出荷数量 (グロス)	輸出出荷数 (グロス)	国内出荷数 (グロス)	国内出荷数 (個数:億個)	対前年 変化率	対80年 変化率
1979	6,226,454	1,545,097	4,681,357	6.74	-	-
1980	6,574,747	1,455,748	5,118,999	7.37	109.3%	-
1981	6,415,853	1,360,007	5,055,846	7.28	98.8%	98.8%
1982	5,999,573	1,392,393	4,607,180	6.63	91.1%	90.0%
1983	6,054,882	2,024,424	4,030,458	5.80	87.5%	78.7%
1984	5,605,514	1,072,624	4,532,890	6.53	112.5%	88.6%
1985	5,632,702	1,178,104	4,454,598	6.41	98.3%	87.0%
1986	5,888,800	1,544,607	4,344,193	6.26	97.5%	84.9%
1987	7,075,521	2,522,058	4,553,463	6.56	104.8%	89.0%
1988	7,675,710	3,276,892	4,398,818	6.33	96.6%	85.9%
1989	6,513,957	2,443,808	4,070,149	5.86	92.5%	79.5%
1990	6,911,743	2,671,950	4,239,793	6.11	104.2%	82.8%
1991	7,381,191	3,126,798	4,254,393	6.13	100.3%	83.1%
1992	8,004,622	3,502,201	4,502,421	6.48	105.8%	88.0%
1993	8,336,468	3,589,175	4,747,293	6.84	105.4%	92.7%
1994	7,428,392	3,200,625	4,227,767	6.09	89.1%	82.6%
1995	7,610,858	3,508,585	4,102,273	5.91	97.0%	80.1%
1996	7,011,917	3,094,779	3,917,138	5.64	95.5%	76.5%
1997	6,671,849	2,670,140	4,001,709	5.76	102.2%	78.2%
1998	7,317,648	3,307,096	4,010,552	5.78	100.2%	78.3%
1999	6,474,145	3,023,437	3,450,708	4.97	86.0%	67.4%
2000	5,982,577	2,564,424	3,418,153	4.92	99.1%	66.8%
2001	5,838,125	2,715,139	3,122,986	4.50	91.4%	61.0%
2002	5,356,798	2,393,930	2,962,868	4.27	94.9%	57.9%
2003	4,930,632	1,981,174	2,949,458	4.25	99.5%	57.6%
2004	4,703,813	1,772,771	2,931,042	4.22	99.4%	57.3%
2005	4,268,639	1,819,014	2,449,625	3.53	83.6%	47.9%
2006	3,668,590	1,533,208	2,135,382	3.07	87.2%	41.7%
2007	3,571,507	1,577,292	1,994,215	2.87	93.4%	39.0%
2008	3,276,749	1,560,923	1,715,826	2.47	86.0%	33.5%
2009	2,847,493	1,134,083	1,713,410	2.47	99.9%	33.5%
2010	3,613,472	1,647,743	1,965,729	2.83	114.7%	38.4%
2011	3,438,680	1,439,194	1,999,486	2.88	116.7%	39.1%
2012	4,716,965	2,158,611	2,558,354	3.68	130.1%	50.0%

*2010年値は1月集計値。年報発行時修正される場合がある。

*2010年値は2欠席社分を補正した値。

平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
高リスク層の HIV 感染監視と予防啓発及び内外の HIV 関連疫学動向の
モニタリングに関する研究

性感染症患者の HIV 感染と行動のモニタリングに関する研究

分担研究者/研究担当者：荒川創一（神戸大学医学部附属病院感染制御部）、木原正博（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野）

研究協力者：吉尾 弘（吉尾産婦人科医院）、南 邦弘・前田信彦（札幌東邦病院）、岩澤晶彦（岩澤クリニック）、尾田寿朗（きよた泌尿器科クリニック）、伊藤 晋（あいクリニック）、木村 正一（木村クリニック泌尿器科）、尾上 泰彦（宮本町中央診療所）、赤枝恒雄（赤枝六本木診療所）、家坂清子（いえさか産婦人科医院）、澤村正之（新宿さくらクリニック）、佐々木 寛（佐々木医院）、細部高英（細部医院）、大原宏樹（山の手クリニック新宿院）、伊藤雅康（岐阜泌尿器科）、波多野紘一（波多野泌尿器科皮ふ科医院）、成田晴紀（成田クリニック）、和泉孝治（いずみレディースクリニック）、加納武夫（加納産婦人科）、渡辺朝香（渡辺医院）、保科眞二（保科医院）、野村真康（野村クリニック）、郷司和男（ごうじ泌尿器科クリニック）、田 珠相（田泌尿器科クリニック）、下垣博義（しもがき泌尿器科クリニック）、小野義春（おの泌尿器科クリニック）、澤田益臣（レディースクリニックさわだ）、早川謙一（早川クリニック）、川井修一（かわい泌尿器科クリニック）、安藤由起子（安藤ゆきこレディースクリニック）、本多由紀子（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻社会疫学分野）

研究要旨

全国主要都市の 29 の STD クリニックを受診した患者（男女）及びセックスワーカー（CSW）を対象として、希望者に無料 HIV 抗体検査を提供し、HIV 感染の浸透度を検討した。対象者は、STD 感染不安もしくは定期検診のために受診した者とし、同意を得て HIV 抗体検査および HIV 検査ニーズ及び HIV 関連知識に関するアンケート調査を行った。

平成 25 年 9 月 1 日から 12 月末日（一部医療機関は平成 26 年 2 月末日まで）の間に連続サンプリングした。22 医療機関から症例が集まり、集まった症例数は、男性患者 322 例、女性患者 109 例、CSW160 例で合計 591 例であった。

HIV 抗体陽性者は、男性患者 5 名（1.55%）に認められた。アンケート分析の結果、HIV 検査目的以外で受診した例は、男性患者 75.4%、女性患者 84.7%、CSW32.3%であったが、無料検査希望者は、90%以上と高率であり、無料検査希望は、全国的傾向であることが示唆された。HIV 受検経験者の割合は、男性患者 15.3%、女性患者 11.8%、CSW73.3%で、HIV 受検経験者中の複数回経験者は、それぞれ、25.0%、50.0%、73.7%であった。HIV 感染リスク認知が「全くない or 低いと思う」と回答した者は、男性患者 73.1%、女性患者 61.2%、CSW41.6%と、リスク認知が不十分な状況が示唆された。HIV 関連知識（7 項目）に関しては、正解率 70%以上が多く、知識レベルは一般に低くはないが、3 グループとも、「性感染症に罹っていると HIV に感染しやすい」、「保健所では名前を言わず無料で検査できる」、「HIV 検査で感染が分かった場合、名前や住所が国に報告される」の正解率は低かった（それぞれ、47-63%、56-69%、21-36%）。以上より以下の点が示唆された。

- (1) 男性患者の HIV 抗体陽性率は依然 1%前後で、これまで同様保健所等での検査よりかなり高率であった。本調査では、男性の HIV 感染者は関東方面に集積していた。
- (2) 無料 HIV 検査へのニーズが全国的に非常に大きく、無料 HIV 検査提供の意義が改めて示された。
- (3) STD クリニック受診者の間には、「性感染症に罹っていると HIV に感染しやすい」という予防上重要な知識の普及が不十分であり、今後の啓発の重要性が示唆された。

1. 研究の背景と目的

わが国において、HIV 感染者報告数は依然として明確な減少傾向は見られず、AIDS 患者の発生も先進国としては異例に未だ減少傾向がみられていない[1]。特に後者は、HIV に感染しても検査を受けることなく潜在している感染者が多いこと、つまり HIV 検査体制が不十分であることを示唆するものとなっている。わが国の HIV 感染者/AIDS 患者報告例中、性感染例は約 90%を占めており、こうした性感染 HIV 症例の発見効率を高めることは、より正確な HIV 流行の現状把握と予防促進に役立つという意味で、我が国のエイズ対策において、極めて重要な意義がある。

この意味で、性行為による疾患を扱う STD クリニックは、潜在 HIV 感染者がアクセスする可能性が最も高い場所として、国際的にもエイズ対策上重要な位置づけを与えられているが、わが国では、STD クリニックを検査機会として位置づける施策は実現していない。こうした背景を踏まえ、本年度は、昨年度に引き続き、受診者（男女外来患者と検診に訪れた CSW）に無料 HIV 抗体検査を提供して、HIV 感染率のモニタリングを継続することとし、かつ、受診者の HIV 検査ニーズや HIV 関連基本知識の普及状況を把握するためのアンケート調査を実施した。

2. 対象と方法

(1) 対象者とサンプリング

- ① 外来患者：北海道(4)、宮城(2)、東京(5)、神奈川(1)、群馬(1)、岐阜(4)、愛知(2)、京都(1)、大阪(7)、福岡(2)において STD 外来をもつ合計 29 医療機関を平成 24 年 9 月 1 日から 12 月 31 日の間（一部の医療機関では平成 25 年 2 月末日まで）に受診した患者
- ② 上記期間中、定期検診（HIV 検査を含む）を目的に来所した女性セックスワーカー。
- ③ サンプリングは、上記①、②とも、連続サンプリングとし、20 歳以上の成人を対象とした。研究期間中に、割り当てたサンプル数に達した医療機関では、その時点でサンプリングを打ち切った。

(2) 方法

- ① 上記の対象者の同意を得て、血液による無料 HIV 抗体検査を行った。
- ② 全受診者に対して、HIV 検査ニーズ及び HIV 関連基本知識に関するアンケート調査を依頼した。
- ③ HIV 検査が陽性であった症例に対しては、確認検査を行い、専門の医療機関を紹介した。

(3) 倫理的配慮

HIV 検査結果は、各参加施設から陽性数のみを報告してもらい、研究班レベルでは、個人の特定できないよう配慮した。アンケートは、無記名で、検査とは全くリンクできない形で収集し

た。本研究は、2011年度に、日本性感染症学会の倫理委員会の承認を受けた。

3. 結果

研究期間中に、22 医療機関から、591 名が研究で提供した無料の HIV 検査を受検し、555 名がアンケート調査に参加した。

(1) 無料 HIV 検査結果

無料 HIV 検査受検の内訳は、男性外来患者（以下、男性患者）322 名、女性外来患者（以下、女性患者）109 名、女性セックスワーカー（以下、CSW, commercial sex worker）160 名であり、男性患者中 5 名（1.55%）が HIV 抗体陽性であった。女性患者と CSW には、HIV 抗体陽性者は認められなかった。

(2) アンケート調査結果：単純解析

表 1 は、対象群別に、基本的質問項目に対する回答を比較したものである。年齢構成は、男性患者が全年齢に比較的分散していたのに対し、女性患者は 3 分の 2 以上が 30 歳未満と最も若く、CSW も男性患者よりは、若年層に分布していた。

性感染症罹患経験は、男性患者 44.7%、女性患者 60.0%であったが、CSW では 86.3%に及んだ ($P<0.01$)。HIV 検査を希望して来院した参加者は、男性患者 24.3%、女性患者 14.1%であったが、CSW では 67.7%であった ($P<0.01$)。無料 HIV 検査希望者は、男性患者 92.2%、女性患者 97.6%、CSW 93.2%と、どの群でも極めて高かった。これまでに HIV 検査受検経験がある者は、男性患者 15.5%、女性患者 11.8%、CSW 73.3%で、男性患者、女性患者では低率であった。受検経験者のうち、過去に複数回検査を受けたことがある者の割合は、男性患者で 25.0%、女性患者で 50.0%、CSW で 73.7%であり、3 回以上は、それぞれ、12.5%、20.0%、67.8%であった。HIV 感染へのリスク認知が低い者（「全くない」もしくは

「低いと思う」と回答した者）の割合は、男性患者で 73.1%、女性患者で 61.2%、CSW で 41.6%であり、どの群でもかなりの割合に上った。また、CSW では、2 割以上で、リスクが高いと認識されていることが示された。

表 2 は、性感染症の罹患経験の年齢層別分析の結果を示したもので、女性患者では 40-63%の範囲で、年齢が若いほど小高率である傾向があった。男性では 40-50%、CSW では 82-90%と高率であったが、年齢層間に有意差はなかった。

表 3 は、罹患経験者における性感染症の種類を示したもので、男性では、最も多い性器クラミジアが 38.4%、最も低い梅毒で 5.8%で、特に突出したものはないが、女性患者、CSW では、約 3 分の 2 以上に性器クラミジアの罹患経験があった。CSW では、女性患者とは異なり、淋病も 40.3%と高値であった。

表 4 は、来院時に HIV 検査を予定していた参加者の割合の年齢分布を示したもので、男性患者ではどの年齢層でも 2-3 割前後が HIV 検査を予定して来院していたが、女性患者では 11-20%と低く、CSW では、30 歳未満を除く全年齢層で 75%以上であった。

表 5 は、来院時 HIV 検査を希望していなかった人の中で、その場で提供された無料 HIV 検査を希望した人の割合を示したものである。90%以上が希望し、無料検査へのニーズが極めて高いことが示された。この傾向は、どの医療機関でも見られ、無料検査への希望は、全国的傾向であることが示唆された。

表 6 は、受診者における直近のコンドーム使用状況を示したものである。直近の性行為でコンドームを使用したと回答したものは、男性では、年齢にかかわらず、30-40%台であったが、女性では、50-65%と高く、CSW では、38-61%であった。

表7は、HIV関連知識についての質問に対する回答の分布を示したものである。質問1「最近わが国のエイズウイルスの感染経路は性行為によるものが最も多い」、質問3「エイズウイルスに感染している妊婦から赤ちゃんにエイズウイルスが感染する可能性がある」、質問5「性感染症はオーラルセックスで感染することがある」については、全てのグループで73-83%と高い正解率を示したが、質問2「治療薬の進歩で、エイズウイルスに感染してから発病するまでの期間を遅らせることができるようになった」は、女性患者で54-65%とやや低く、質問4「性感染症(性病)にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい」は、女性患者とCSWで正解率が47-57%前後とやや低く、質問6「保健所では名前を言わずに無料でエイズ検査ができる」は、全群で、50、60%台と低く、また質問7「エイズ検査で感染がわかった場合、名前や住所が国に報告される」は、全群で、26-36%台と特に低率であった。

(3) アンケート調査結果：相関解析

リスク認知をアウトカム変数として、HIV関連知識の各項目を変数としたカイ二乗分析、HIV検査目的の来院をアウトカムとし、リスク認知、HIV関連知識の各項目を変数としたカイ二乗分析を実施したが、どの群においても、統計学的に有意となる結果は得られなかった。

考察

(1) 来院者の HIV 抗体陽性率について

厚生労働科学研究費補助金のエイズ対策研究事業におけるSTDクリニック来院者のHIV抗体陽性率のモニタリングは、平成15年度から開始されているが、平成15-17年度の3年間におけるHIV抗体陽性率は、男性外来患者0.34% (587例中2例) [2]、女性外来患者および女性セックスワーカーでは0.07% (2672例中2例) と低率であった。しかし、平成18-20年

度には、女性外来患者および女性セックスワーカーでは陽性者を認めなかったが、男性外来患者では1.6% (623例中10例) と上昇した[3]。その後、21年度は1.5% (4/263)、22年度は1.6% (2/122)、23年度0.87% (2/231)、24年度0.58% (4/685)と、低下しつつあるようにも見えるが、分子が小さいため、安定した傾向とは言えない。特に24年度の低率は、参加医療機関がこれまでの関東中心から全国に拡大したため、これまでのデータとは直接に比較することはできない。25年度は、関東の医療機関を中心に1.55%と、22年度以前の状況に戻ったため、今後の傾向を注視する必要がある。しかし、それでも、この陽性率は、保健所等で行われている公的なHIV検査におけるHIV抗体陽性率(保健所0.3%) [4]を大きく上回るものであり、STDクリニックが、HIV流行の重要なセンチネルサイトであり、かつ潜在するHIV感染者を掘り起こし、治療と予防につなげる上で重要な場所であるというこれまでの結論が改めて確認された。

(2) アンケート調査の結果について

本年度もSTDクリニック来院者のHIV検査ニーズとHIV関連知識の普及状況を調べるためのアンケート調査を実施した。これまでの調査で、STDクリニック受診者の無料HIV検査ニーズが極めて高いことを示してきたが、本年度は、参加医療機関を3倍、かつ全国の主要都市に拡大したにもかかわらず、希望率は、90%以上と極めて高く、無料検査希望が全国的傾向であることが示された。わが国のHIV検査体制は、保健所に大きく依存しているが、保健所等における公的HIV検査は、2008年をピークに低下したままで、かつAIDS患者報告数は、多剤併用療法が利用できる先進国としては異例に、多剤併用療法開発後も減少していない。これは、現行のHIV検査体制が不十分で早期発見・治療に結びついていないことを示しており、こうした現状が続

けば、HIV 流行の潜在的な拡大が続き、また、感染者にとっても、AIDS を発症してから発見されるという予後の観点から望ましくない事態が続くことになる。

2010 年度の調査で、保健所の平日検査や夜間休日検査を希望する者 STD クリニック受診者は、概ね 10%未満と少ないことが判明しており、保健所検査では、高リスク層を効率的に把握できない可能性が高い。保健所依存体制を脱却し、STD クリニックを、高リスク層に効率的にアクセスできる新たな HIV 検査機会として、行政的な位置づけを行うことが期待される。40%前後の成人が HIV 検査を受け、年間 HIV 検査数が 1600 万件から 2200 万件に及ぶと推定されている米国では、HIV 検査は、44%が民間医療機関、22%が病院等で行われており、公的なクリニックでの検査は 9%に過ぎない[5]。我が国も、保健所等を中心とする検査体制の見直しが急務である。

また、本年度も、HIV 関連知識に関する質問を導入したが、STD 患者にとって最も重要な情報である「性感染症(性病)にかかっていると、エイズウイルスに感染しやすい」という知識が、6 割弱にしか普及していないこと、保健所における無

料匿名検査の存在が、60%前後の患者にしか知られていないことが示され、STD クリニックを拠点とした普及啓発の意義を示唆するものとなった。

引用文献

1. エイズ発生動向委員会. 平成 23 年エイズ発生動向年報
2. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染症の動向と予防モデルの開発・普及に関する社会疫学的研究」平成 15 年度～17 年度総合報告書
3. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染の動向と影響及び政策のモニタリングに関する研究」平成 18-20 年度総合研究報告書
4. 厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究平成 21 年度報告書
5. 米国疾病管理予防センターWebサイト
(http://www.cdc.gov/hiv/topics/testing/resources/slidesets/pdf/testing_healthcare.pdf) 平成 24 年 5 月 8 日アクセス

項目	男性外来患者 (n=309)		女性外来患者 (n=85)		セックスワーカー (n=161)		合計 (n=555)		P値	
	n	%	n	%	n	%	n	%		
	年齢	<30歳	89	28.8	59	69.4	67	41.6		215
	30-39歳	103	33.3	20	23.5	59	36.6	182	32.8	
	40-49歳	76	24.6	5	5.9	28	17.4	109	19.6	
	50歳以上	41	13.3	1	1.2	7	4.3	49	8.8	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
性感染症罹患経験	あり	138	44.7	51	60.0	139	86.3	328	59.1	0.00
	なし	143	46.3	27	31.8	18	11.2	188	33.9	
	わからない	23	7.4	7	8.2	3	1.9	33	5.9	
	無回答・不明	5	1.6	0	0.0	1	0.6	6	1.1	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
本日のHIV検査予定	はい	75	24.3	12	14.1	109	67.7	196	35.3	0.00
	いいえ	233	75.4	72	84.7	52	32.3	357	64.3	
	無回答・不明	1	0.3	1	1.2	0	0.0	2	0.4	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
本日の無料検査受検希望	はい	285	92.2	83	97.6	150	93.2	518	93.3	0.41
	いいえ	20	6.5	2	2.4	8	5.0	30	5.4	
	無回答・不明	4	1.3	0	0.0	3	1.9	7	1.3	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
これまでのHIV検査経験	あり	48	15.5	10	11.8	118	73.3	176	31.7	0.00
	なし	258	83.5	75	88.2	42	26.1	375	67.6	
	無回答・不明	3	1.0	0	0.0	1	0.6	4	0.7	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
過去のHIV検査受検回数 (対象:検査経験者のみ n=176)	1回	34	70.8	5	50.0	25	21.2	64	36.4	0.00
	2回	6	12.5	3	30.0	7	5.9	16	9.1	
	3回以上	6	12.5	2	20.0	80	67.8	88	50.0	
	無回答・不明	2	4.2	0	0.0	6	5.1	8	4.5	
	合計	48	100.0	10	100.0	118	100.0	176	100.0	
直近の性行為でのコンドーム使用	はい	111	35.9	38	44.7	79	49.1	228	41.1	0.08
	いいえ	177	57.3	46	54.1	74	46.0	297	53.5	
	おぼえていない	16	5.2	1	1.2	6	3.7	23	4.1	
	無回答・不明	5	1.6	0	0.0	2	1.2	7	1.3	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	
リスク認知	まったくない	38	12.3	12	14.1	13	8.1	63	11.4	0.00
	低いと思う	188	60.8	40	47.1	54	33.5	282	50.8	
	中くらいと思う	71	23.0	25	29.4	62	38.5	158	28.5	
	高いと思う	5	1.6	8	9.4	31	19.3	44	7.9	
	無回答・不明	7	2.3	0	0.0	1	0.6	8	1.4	
	合計	309	100.0	85	100.0	161	100.0	555	100.0	